

「罪福信」

ある日の新聞の一面に「ぽっくり寺盛況 その心」という記事が載っていました。

「ぽっくり寺」などの愛称で呼ばれているお寺が全国に数十カ所もあり、その中のあるお寺では、毎月の縁日に約1万人もの参詣者が訪れるそうです。

今日、人類の長寿化が進む中で、人生の最期をどう迎えるのか、という事に悩んでいる人々が増えているのでしょう。

評論家のコメントには、「介護が必要になったり、病気になったりすることを『惨めで人に迷惑をかける存在』と考えてしまい、『突然死』イコール『幸せ』と考えるのだろう」とありました。

現代人は、自分のいのちは自分のものと思ひ込み、思い通りにならない死を思い通りにしようとして苦しんでいるのではないのでしょうか。

盛況の原因に、「こうなるはずだ」という予想と、「そうなって欲しい」という期待がお参りさせているのでしょう。真宗（親鸞聖人の教え）では、予想や期待する心を罪福信と言います。突き詰めて言うと自己満足です。自分が惨めにならないように、自分が満足するように本能的に願う心です。しかし、願う心が予想と期待なので、お参りをしながら実は本当にそうなるのか疑いを持つことになります。そして最後まで疑いを持ちながら生涯を送るのでしょう。

そこから救われていくためには、いのちとは誰のものであるのか、また、私とはどういう存在なのかということ問い返さなければならないのではないのでしょうか。

そして、自分の思いの限界を知らされていくところに念仏の教えがあると思います。